

かお・人・interview

2025年10月15日

所長

インタビュー

国土交通省 九州地方整備局
武雄河川事務所 所長

真鍋 将一氏

MANABE Shoichi

気候変動の影響に伴い、全国的に洪水被害が激甚化・頻発化しており、六角川、松浦川でも近年浸水被害が発生するなど、氾濫リスクが高まっている。こうした課題に対応するため、国や自治体、地域住民が「丸」となって「流域治水」に取り組む。また、職員が積極的に現地調査を行い、河川の保全や水辺の活用など、地域住民の立場への理解を深めている。今後の課題や展望について、武雄河川事務所の真鍋所長に話を伺った。

Q 所長就任にあたっての抱負

近年、気候変動の影響に伴い、全国的に洪水の被害が激甚化、頻発化しています。佐賀県西部に位置する当事務所でも、六角川水系において、令和元年、3年の出水により、いずれも浸水面積5,000ha、浸水家屋3,000戸を超える甚大な被害が発生しました。また、松浦川水系でも令和5年の出水により氾濫が発生するなど、洪水のリスクが高い地域です。

その中でも、厳しい状況にあるのが六角川であり、有明海の干満の影響を受けるとともに、海から上流までの標高差はわずか4mしかない低平地であるため、水はけが容易ではありません。雨が集中して降った場合、水位は急激に上昇し、洪水のリスクが高まります。特に、上流の武雄市内においては、狭い低平地に水が溜まり、床上浸水家屋が多く集中している背景から、令和5年3月に九州初の特定都市河川の指定を受け、令和7年3月に六角川流域水害対策計画を策定しました。大きな水害にあった地域であるため、引き続き、住民の方に寄り添ったきめの細かい事業を進めて参ります。

佐賀県をますます元気にするためにも、県や市町、そして地域にお住まいの方、建設業の皆様方と一緒に、水災害対策のみならず、川を介した人との交流も進めて行き、地域の活性化にも繋げていきたいと思っています。



▲六角川

Q 福岡県や佐賀県とのつながり

私は福岡県出身で、大学は佐賀大学の農学部に通っていました。そのため、武雄河川事務所に赴任したときは、懐かしさで胸がいっぱいになったのを覚えています。特に、農学部で学んだ知識は、現在の業務において思わぬ形で役立っています。例えば現在、

身近にある川は、自然環境について学ぶ場ですが、同時に災害となって日々の暮らしを襲う可能性もある。その両面に意識を向けておかないと。

私たちは流域治水の一環として田んぼダムなどの協力を周辺住民の方々にお願いしています。近代化の中で、農業土木と一般土木はそれぞれ別の分野として発展してきましたが、今は再び協力し合う時代に戻ってきたのだらうと感じています。地域には知り合いも多く、そこで築いてきたネットワークは大きな地の利になっています。

Q 当事務所の紹介

武雄河川事務所では、地域の人々が安全に安心して暮らせるよう、六角川・松浦川の堤防や樋門樋管、排水機場、堰、水門などの施設の整備や維持管理、厳木ダムの管理を行っています。また、地域の暮らし、歴史・文化との調和に配慮するとともに、豊かな生態系および河川景観を保全するため、地域と一緒に「かわづくり・まちづくり」に取り組んでいます。

令和元年、3年に甚大な浸水被害が発生した六角川水系では、「新・六角川水系流域治水プロジェクト」に基づき、河川整備の加速化を図るとともに、本川・支川、上流・下流などの流域全体を俯瞰し、国・県・市町・住民など、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を推進しています。令和5年3月に特定都市河川浸水被害対策法に基づき、六角川の柵島橋より上流域を特定都市河川流域に指定し、関係住民等と協議を重ね、令和7年3月に九州で初めて、六角川流域水害対策計画を策定しました。この計画に基づき、現段階でも依然残る床上浸水被害を軽減すべく、引き続き「流域治水」を実践していきます。

当事務所は出張所および厳木ダム管理支所を含め、88名の職員で業務を行っています。職場内では、所長から一般職員まで業務の悩みや達成感を共有しやすい、

風通しの良い環境づくりを重視しています。

職員のスキル向上のため、ベテラン職員による講義によって経験や行政スキルの継承を図っています。また、

全職員が参加する「フロンティア武雄」と題した各種部会では、教育や広報、職場環境改善などの活動に主体的に取り組んでいます。

若手職員主導で、ボーリングやソフトボール大会などイベントを立案・運営しており、業務であまり接点が無い者ともコミュニケーションが取れ、風通しの良い職場づくりにも寄与すると

ともに成功体験を積みやすくなっています。

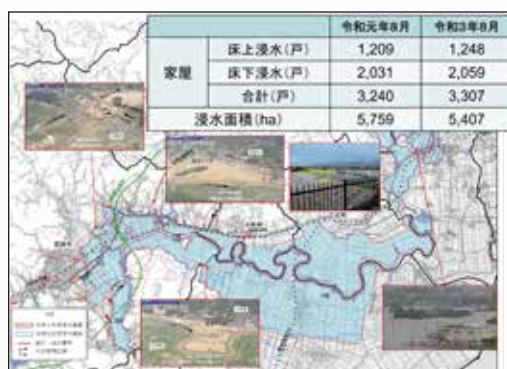
さらに、実際に現場へ足を運ぶ機会も多く設けており、職員が自分の目で現場を確認することで業務理解を深めています。最終的には、若手職員が六角川・松浦川の特徴や自身の業務について住民に自信を持って説明できるよう成長することを目指しています。

Q 今年度の事業概要について

令和7年度の事業予算（維持修繕費及び工事諸費は除く）は5,461百万円となっており、その内訳は、一般河川改修事業費4,533百万円、流域治水整備事業費300百万円、河川工作物関連応急対策事業費170百万円、総合水系環境整備事業費50百万円、堰堤維持費408百万円です。

事業概要ですが、堤防が低い箇所や堤防の断面が不足している箇所は、必要な高さ・断面等を確保するために、堤防の嵩上げや拡幅等を実施しています。また洪水時に、川の水位を下げることを目的として、各洪水調節施設の整備にも取り組んでいます。

・六角川水系／牛津川遊水地（牛津川：小城地区）の



▲R1.3六角川浸水実績図

整備、六角川洪水調節池(六角川：溝ノ上地区)の整備(河道付け替え)、牛津川引き堤(牛津川：上砥川地区)等を実施しています。また、本年度より新たに六角川流域水害対策計画(六角川：武雄市内)に着手しています。

・松浦川水系／築堤や樋管の改築(徳須恵川：石志地区)等を実施するとともに、厳木ダムの管理設備の点検整備等を実施しています。また、本年度より新たにかわまちづくり事業(厳木川：中島地区)に着手しています。

Q地域との連携・協働について

武雄河川事務所管内では、特定非営利活動法人アザメの会、六角川・川の学校、自然と暮らしを考える研究会、中島水辺の交流とオアシスの郷づくり事業推進委員会などの団体が、河川愛護・美化、除草等の維持活動、カヌー等の川あそび、動植物の観察会などの活動を行っており、事務所職員も地域の方々と連携して、取り組んでいます。



▲アザメで魚とり：相知小学校



▲夏休み自然教室

Q地域建設業への要望・メッセージ

気候変動の影響で、年々、日本各地で深刻な洪水被害が発生しています。武雄河川事務所が管理している六角川水系でも、前述のとおり激甚な被害が発生しました。その際の災害対応、そして被害軽減に向けた工事の推進により地域の安全・安心を確保すること、まさに国土強靱化を進めるためには、地域建設業界の方々の力が必要不可欠です。

国土強靱化については、5か年加速化対策に続く計画として、国土強靱化実施中期計画が6月に策定され、これに基づき、施策の一層の重点化を図り、災害に屈しない強靱な国土づくりを進めることとされています。地域



▲牛津川遊水地斜め写真(R7.5月時点)

の安全と、佐賀県内地域の活気を保つために、ぜひとも引き続き、ご協力をお願い申し上げます。

一方で、人口減少社会が進む中で、建設業における担い手の確保は重要な課題であり、働き方改革に資する取組が必要不可欠であると認識しています。働きやすい環境づくりに向けて、適正な工期の確保、発注時期の平準化、建設DXのさらなる促進、発注者側の意識改革、大学生や高校生等への建設業の魅力発信に努めて参ります。

Q趣味や健康法について

1300ccの大型バイクに乗っており、ツーリングでさまざまな場所を巡ることが趣味です。佐賀は学生時代に6年間過ごした土地なので、ほとんどの場所は知っているつもりでした。しかし、武雄に赴任してから改めて地域を巡ってみると、まだまだ知らない魅力的なスポットが多いことに驚いています。せっかく武雄で勤務する機会をいただいたので、この地域の新しい発見を楽しみながら、バイクでのツーリングも存分に満喫したいと考えています。

プロフィール



福岡県出身、44歳

H17年4月 国土交通省入省 中国地方整備局
出雲河川事務所 調査設計課

H19年4月 国土交通省政策統括官付
政策評価官付係長

H21年7月 国土交通省 河川局 治水課企画調整係長
H23年8月 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所
海岸課長

H26年8月 国土交通省水管理・国土保全局水資源部
水質源計画課課長補佐

H30年7月 和歌山県県土整備部河川課長

R 2年4月 中部地方整備局 設案ダム工事事務所長

R 5年4月 岐阜県 県土整備部 河川課長

R 7年4月 現職